

1. はじめに

H27 年度 中小企業診断士試験に合格することが出来ました。正直、受験を志した時点ではここまで苦勞するとは思いませんでしたが、それでも合格できたのは、AASの先生方のご指導をはじめ、切磋琢磨できる勉強仲間の存在、そして家族の理解があったからだと思います。この場を借りて改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2. 受験のきっかけ

私は会社の IT 部門に勤務しています。あるプロジェクトで IT コンサルの立場でプロジェクトに参画したのですが、経営の視点が不足していたことから十分な成果が出せなかった、と感じていました。そんな時に出会ったのがこの中小企業診断士試験でした。いままで様々なプロジェクトで得ていた断片的な知識を体系化する機会になるとも考え、勢いでチャレンジを決意しました。

3. 受験歴

	1次	2次(総合)	得点	勉強方法
H24	○	×(D)	49,30,41,32	大手通学ストレートコース
H25	○	×(C)	56,42,57,45	AAS 名古屋 通学
H26	○	×(B)	61,63,58,56	AAS 名古屋 通学
H27	○	○(A)	86,65,67,64	AAS 名古屋 通信

受験歴の通り、1年目の結果は散々なものでした。総合判定 D なんて合格するより低い確率ではないでしょうか(笑)。この時は中小企業診断士のことが全く理解できておらず、謎めいた持論を自信満々に展開していたような気がします(笑)。

2年目はさすがに危機感を覚え、藁をもすがる思いでAASの説明会に伺いました。そこで鷺山先生から具体的な解法を教えていただいた時、まさに目から鱗の思いでした。その場で受講を決め、翌日には合格答案分析会に出席していました。AASに通学し、解法をひたすら学びました。受験仲間にも恵まれとても楽しかったです。設問分解や春秋要約でトレーニングし、本試を迎えたものの敢え無く撃沈。AASの解法を見よう見まねでやっていただけで、その本質がわかっていなかったのです。今思えば、手段と目的を履き違えていたのでしょう。

3年目は2点届かず不合格。2次試験直前に集中的に実施した過去問分析によって、自分なりに中小企業診断士に求められているものがわかりかけていた段階でした。また、2次試験の手ごたえもそれなりにあっただけに、挫折感はかなり大きかったです。正直なところ、少し腐りかけていました(笑)。一方、合格ライン近辺までは達しており、この解法は間違

っていないと思えたことだけが唯一、心の支えでした。

4年目は通学から通信へ切り替えました。あとは自分との戦いだと思ったからです。ただ、鷺山先生の添削はいただきたかったので、独学でなく、通信生にしました。毎週末、図書館へ通い、過去問を何度も解きました。1年前にはハテナマーク乱れ打ち状態だった添削も直前期にはOKとだけ書かれて帰ってくるようになってきていました。満を持して迎えた2次試験ではAASでの3年のトレーニング成果をぶつけ、ついに合格することが出来ました。

4. 合格の要因

私のやってきた勉強方法はどれもAASの一般的な方法なので特筆すべきものはありません。しかし、特に気をつけていたポイントは下記の4点です。

① 設問分解、与件分解を使いこなす

AASの設問分解、与件分解を自分なりに使いやすい形として使いこなすことです。また、設問分解をするために設問分解をするのではなく、自分の短所を補うため、設問分解を手段として正しく使うことが非常に重要です。

② 事例毎の特徴を理解する

過去問を事例毎に分析しました。事例毎に「何故」「何を」問われるのか？何故、与件にその記述があるのか？を考えました。これを繰り返すことで2次試験の本質が見えるような気がしました。たとえば、事例Ⅱは、結局STPしてマーケMIXで差別化するんだな、とか自分なりに（中小企業診断士として至極当たり前な）結論を得たことで、解答に一貫性が出てきたと思います。

③ 解答プロセスを固める

前半40分をビデオに録画し、VEの要領で付加価値の低い時間を削りました。この作業によって解答プロセスを修正していきました。この作業によって、大概の問題であれば前半40分で骨子まで書ききれようになりました。

④ 財務はコツコツ

始業時間前の15分と、昼休みの15分は財務に充てていました。生活のリズムに組み込むことで面倒くさがりな自分でも継続することが出来ました。また、間違えたパターンをメモで残しました。間違え方にも癖があることがわかると対策が出来ます。

5. 最後に

4年間の勉強を経て思うことは、2次試験は思ったよりシンプルで素直なものではないかということ。ただ、これを80分の時間の中でやりきることはとても難しい。短い時間でこれら进行处理するためには、中小企業診断士としての知識をベースとして、事例企業の経営課題にササッと反応し、パパッと伝える技術が必要です。AASにはこれらを実現する具体的な手法が揃っています。また、鷺山先生を始めとする講師陣は個々に合わせた指導をしてくださいます。さらにさらに、苦楽を共にする仲間達との出会いもあります！困ったらAASへ。私のように総合D判定からでも合格できます！拙い文章でしたが、皆様の合格の一助になれば幸いです。